

## WITHコロナ時代の教育政策とICT教育の現状・課題について

### 質問：北川議員

WITHコロナ時代の教育政策とICT教育の現状・課題に関し、次の諸点について、所見を伺いたい。

- (1) 新型コロナウイルス感染症の影響が長期化すると思われる中、教育のあり方を見つめ直す良い機会だと考えるが、WITHコロナ時代にふさわしい教育をどのように捉え、教育政策を進めていくのか。
- (2) 本年度から順次実施される新学習指導要領は、情報活用能力の育成と学校内のICT環境整備やICTを活用した学習活動が大きな柱となっており、小中学校でのプログラミング教育の必修や、高校で履修が必須の「情報1」が新たな科目となる中、ICT教育の現状・課題に関し、次の諸点について、所見を伺いたい。
  - ① ICT教育を行う上で重要となるのは、今までの教育スタイルからの脱却であり、ICT教材のコンテンツ次第で、学習の理解度、応用力などが左右されるため、ICTの利点を活用した教材等のコンテンツが非常に重要だと考えるが、これからのICTを活用した教育スタイルのあり方をどのように考え、将来を見据えた指導用コンテンツをどのように充実していくのか。
  - ② 府立宮津天橋高校において、宮津学舎と加悦谷学舎を遠隔教育システムでつなぎ、学舎間で連携した双方向の英語の授業を視察したが、工夫を凝らすことにより、生徒にとって良い授業ができると考える。こうした遠隔地教育モデルをどのように向上させ、そこで得られた成果をどのように府域で展開していくのか。

### 答弁：橋本教育長

北川議員の御質問にお答えいたします。

WITHコロナ時代の教育施策についてでございます。

学校の臨時休業について、当初は、小学生や特別支援学校の児童生徒など子どもの居場所の確保が大きな課題となり、休業期間が長引くにつれて、学びの保障が最大の課題となってまいりました。加えて、大人も子どももストレスを抱えやすい生活の中で、児童虐待や不

登校などの増加も懸念されております。

こうしたことから、議員御指摘のとおり、学校は、学習機会と学力を保障するという役割だけでなく、安心できる居場所・セーフティネットとして福祉的な役割を併せ持っており、いかなるときも学びを止めないこと、教職員と子どもとの繋がりを保つことが、学校教育の使命であると再認識したところでございます。

学校再開後には、限られた時間の中でも、学級づくりの取組や、感染症対策と学校行事を両立させる工夫が求められました。

対面授業をはじめとする協働的な学びあいの中で行われるのが学校教育の特質であり、人と人の繋がりが希薄になりがちなコロナ禍にあっても、その重要性はより高まっていると言えます。

一方で、ICT機器の整備が加速しており、臨時休業時の学びの保障として有効な手段となり得るオンライン授業や、企業や大学、博物館など離れた場所とつながり交流する遠隔教育が可能となることから、こうしたICTのツールとしての効果を積極的に学校教育に取り込んでいく必要があります。

先日開催されました西脇知事と教育委員会との協議の場である総合教育会議においては、従来型の対面での指導とICTを活用した指導のそれぞれの良さを活かした「ハイブリッド型教育」を目指すべきとの意見が交わされました。また、市町の教育長からも様々な機会を通じて同様の御意見を伺っております。

今後は、これまでの教育の実践とICTの活用を適切に組み合わせた教育により、個別最適な学びや、社会とつながる主体的・協働的な学びの実現に努め、新型コロナウイルス感染症への対応のみならず、学びの質の向上を目指してまいりたいと考えております。

時代の激しい変化の中では、日々子どもに接する最前線である学校を中心に新しい教育を創造していくことが求められており、教育委員会の役割は、全ての学校に一律に取り組みせることよりも、学校や教員が地域の実情に応じて工夫をこらし、新しいことに挑戦していけるように、環境整備等の支援を行っていくことが重要だと考えております。

特に、今回のように誰も経験したことのない突然の臨時休業を乗り切るには、「できないとこ

ろに合わせる」のではなく、現地・現場で知恵を出し合い「できるところから始める」ことが、効果を発揮したところです。

今後もハイブリッド型教育などの新しい教育を進めていくためには、こうした学校現場のやる気や創意工夫を認め、活かしていくことが大切だと考えております。

めまぐるしく変化していく社会において、変化を前向きにとらえて主体的に行動できる人が求められている今、その人づくりを担う教育もまた、変化を恐れず変わっていく必要があります。こうした考えのもと、今後策定する新しい教育振興プランにおいて、WITHコロナ・POSTコロナ社会にふさわしい京都府の教育施策の具体的な方向性についてお示しをしていきたいと考えております。

次に、ICTを活用した教育についてであります。

GIGAスクール構想の動きが加速・充実する中で、新しい学習指導要領を着実に実施しながら、これまでの教育を発展させた新しい時代の学校教育の実現が求められております。

そうしたことから、現在、GIGAスクール構想に基づき、端末やネットワークなどのハード整備を早急に進めているところですが、授業や教員の在り方といったソフト面や人材育成にも課題があると考えております。

今後の授業スタイルの転換に当たっては、ICTを活用することにより、個々の児童生徒の学習進度や学習到達度、興味・関心等に応じた「個別最適な学び」と、空間や時間を共有する学校ならではの「協働的な学び」を両輪で実現するため、教員は、対面指導と遠隔・オンライン教育とを使いこなす、ハイブリッド化された指導を展開する必要があります。

こうした教育の実現に向けましては、教員のICTを活用した指導力の向上に取り組むとともに、教員が授業で実践的に活用できる教材などの指導用コンテンツの充実を図っていくことが大切であります。

そのため、今後普及が見込まれるデジタル教科書やデジタル教材の効果的な活用に加え、スタディログと言われます個人の学習履歴を取り入れた学習方法や、各自の考えを即時に共有し、共同で編集しながら学ぶ協働型学習など、ハイブリッド化された指導の具現化を図って参ります。

また、教員研修などを通じて、子どもたちの興味関心や学習意欲を引き出し、主体的・対話的で深い学びにつながりますよう、指導用コンテンツの充実に取り組んで参ります。

さらに、こうしたコンテンツや指導方法を生かしながら、例えば、不登校児童生徒への多様な学びの機会の提供や、社会課題等の解決に向けた教科横断的な学びなどが充実するよう、今後、検討を進めて参りたいと考えております。

宮津天橋高校、丹後緑風高校に導入いたしました遠隔教育システムについては、距離に関わりなく相互の情報発信や受信ができ、この機能を生かすことで学舎間を繋いだ同時双方向型の合同授業や、外部人材の活用、幅広い科目設定等、教員の指導や生徒の学習の幅を広げる重要なツールの一つとして考えております。

先日、御視察いただいた授業では、議員御指摘のとおり、機器の操作やネットワークの安定性に改善の余地はありますが、生徒からは「互いの価値観に触れることができた」、「学舎間の繋がりを感じた」などの意欲的な意見が聞かれ、コミュニケーションの輪が広がり、多様なものの見方や考え方に触れる機会が得られるものと考えております。

府教育委員会としましては、再編後4学舎の実践や成果を踏まえ、小規模校における教育活動の充実はもちろんのこと、ICTを活用した遠隔教育システムを有効なツールとして、生徒数減少が見込まれる状況の中においても、生徒の多様な科目選択、交流学习や協働的な学びなど学習機会の充実や魅力化を図って参りたいと考えております。